

## 倶多楽の火山活動解説資料（平成26年10月）

札幌管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

#### ・ 地震及び微動の発生状況（図2-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

#### ・ 地殻変動の状況（図2-③）

GNSS連続観測<sup>1)</sup>では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況  
（10月15日、414m山遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次の火山活動解説資料（平成26年11月分）は平成26年12月8日に発表する予定です。

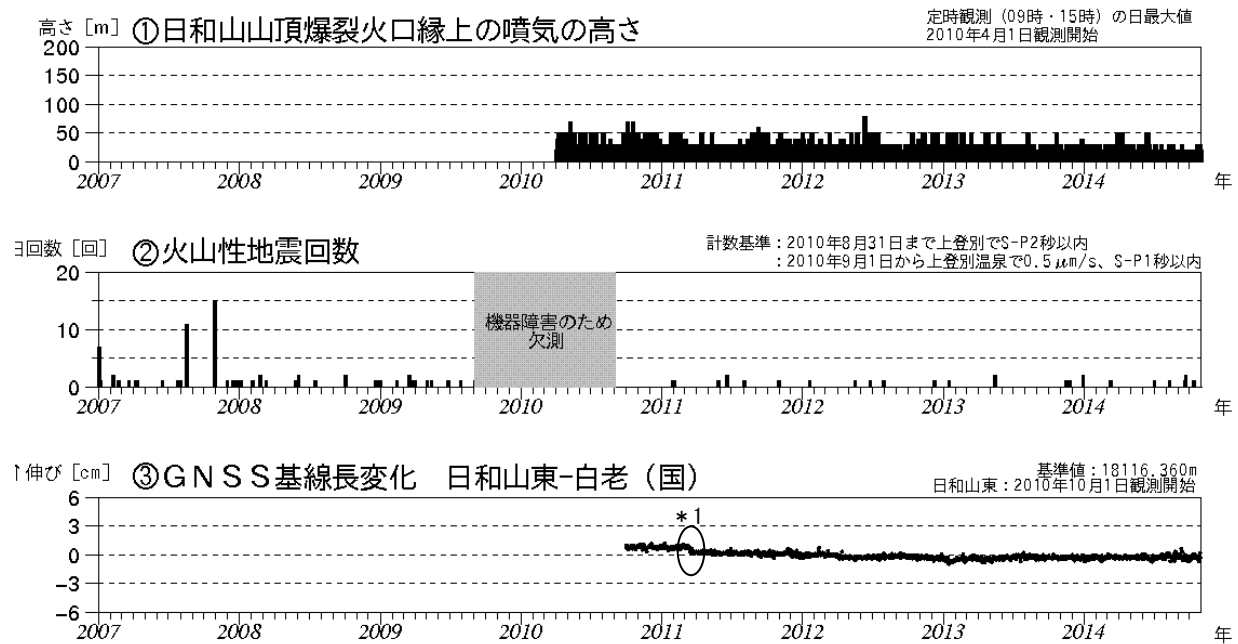


図 2 倶多楽 火山活動経過図（2007年 1 月～2014年10月）

- ・ ③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています
- ・ （国）：国土地理院
- \* 1：楯円内の変動は、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響によるものであり、火山活動によるものではありません

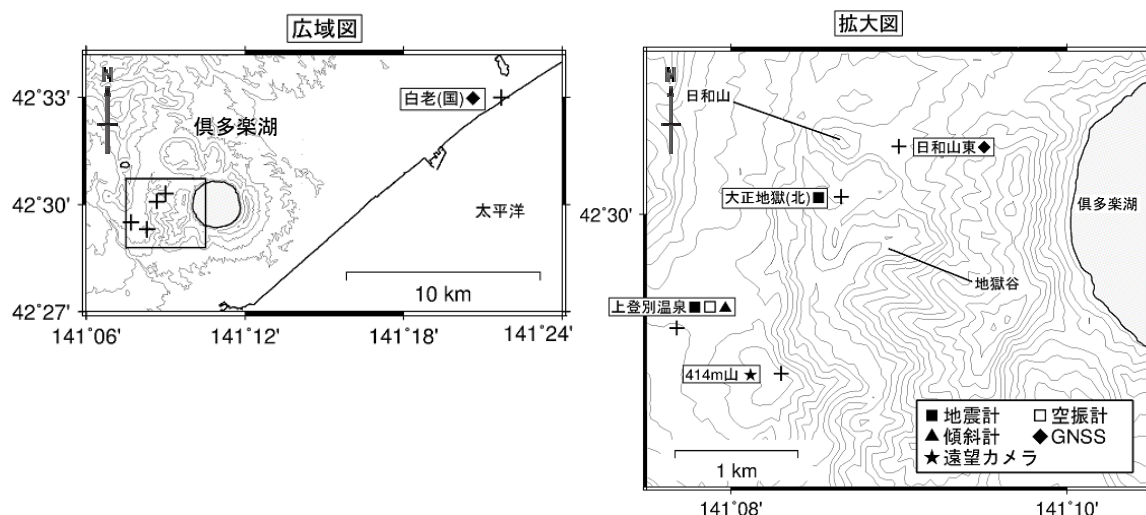
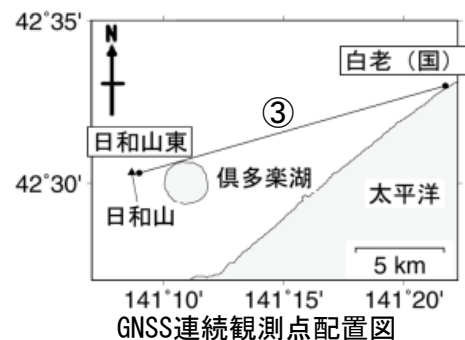


図 3 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します

＋印は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

（国）：国土地理院

（北）：北海道大学